



H6 蒲小5・6年共同制作

〇〇もんずら

奥島教育長コラム No.10 2024. 1. 4

60年目の・・・

まくづき

さてこのおほきなど申せは～

ひゃくさいはつーしょう にひゃくさいは年のさかり～

【鹿橋青年会 能舞歌掛控 より】

白扇を巧みに操り重厚な舞いを終えた翁が、幕裾から顔を幕内に入れた！

ソワソワソワ・・・ チラチラチラ・・・ イソイソイソ・・・翁の舞に集中していた観客の視線が、会場のあちこちに散らばる。(いよいよだ。今回はどの子かな。何人か？)

狩衣の袖で顔を隠しながら、翁登場！翁面を着けた翁は、おどけた舞ぶりで全観客の心をつかむ。高まる太鼓・笛・手平鉦！翁の一つ一つの動きに観客の心は揺れ動く。翁が観客席に降りたぞ！

「昭和30年代、テレビが地区に入った頃、能舞の幕を開けてもほとんど見に来なかった。5年も幕を開けなかった。神事はやっていたよ。あの頃は苦しかった。しかし、今日は能舞をみんなが見に来て、本当によかった、よかった。」

この夏の『ドン！とボン盆フェスタ オープニングセレモニー』の観客席で、感慨深く『翁』を見つめていた方の言葉が、ずっと心に残っている。東通村郷土芸能保存連合会結成からずっと、郷土芸能の保存普及と伝承活動に携わってきた深くて厚い思い。

11月12日、第45回東通村子ども会郷土芸能発表会。大利・小田野沢・白糠・岩屋子ども会の舞を観に、300人近くの人々が駆け付けた。家族親戚、若者連れ、父子、母子、子ども会の先輩たち、学校の同級生、舞や踊りの師匠たち、学校の先生、地域の皆さん。太鼓・鉦・笛・謡・唄が舞手だけでなく、観客の心情も駆り立てた3時間。

さて、60年目の甲辰年始め。

各地区で神々が舞い、五穀豊穡、子孫繁栄、家内安全の祈りは今も続く。幕が開き、人ならざるものを演じる伝承者たちは、躍動する。

昭和39年2月結成から60年目の東通村郷土芸能保存連合会発表会は、1月7日。待望の幕開けだ！



2023. 11. 12 小田野沢子ども会